

# 「ものづくり大国ニッポン」の崩壊？

## － 技能・技術の伝承と人材育成－ 製造現場の労働組合の取り組み

ゲストスピーカー 連合兵庫会長 森本 洋平

### 1.自己紹介・組合紹介(会社紹介)

#### ①森本 洋平

- ・1949. 8 生まれ(58) 妻、一男(23) 一女(26)。
- ・1965. 4 三菱重工業(株)神戸造船所入社 勤続43年1ヶ月。
- ・養成工卒業後、現場で機械職として金属加工に従事。  
(主にディーゼル機関、原子力CI、の加工。深海6500も加工)
- ・1986. 10 労組専従の執行委員として選出される。
- ・1996. 10 書記長 2003. 2 執行委員長
- ・2004. 10 連合兵庫副会長 2007. 11 連合兵庫会長

#### ②三菱重工労働組合 神戸造船支部

- ・1945 終戦の年、荒廃の中、現在の神船支部が結成された。  
(大正初期から労働組合はあった。三菱・川崎の大争議。)
- ・1955 日本生産性本部の結成と同時に組合として加盟。
- ・1968 会社三重工合併に伴い、労働組合も単一組織として発足。  
組織人員は現在、4800名で民間労組としては兵庫県で最大。

#### ③三菱重工業(株)神戸造船所

- ・1905 修繕船工場として発足。2005年に100周年を迎えた。
- ・1946 戦後財閥解体により三菱の解散。
- ・1950 東日本重工・中日本重工・西日本重工の3重工に分割。  
(神戸造船所は中日本重工社の中心事業所となる。)
- ・1964 3重工合併、現在の東京本社と13事業所体制となる。
- ・名前は神戸造船所だが、原子力・機械・鉄構等、主要18製品を製作。
- ・神戸造船所から、三原製作所、高砂製作所、SCM明石製作所を分離独立。

## 2. はじめに

### 3. ものづくりの危機(その1)。……船が消える。「造船構造不況」

- ①1971 ニクソン大統領のドルショック。
- ②1973年、第4次中東戦争を起因とする第1次オイルショック。
- ③1978 イラン革命でイラン石油生産中止、第2次オイルショック。
- ④ドルショック・オイルショックによる造船構造不況へ突入。
- ⑤造船構造不況を受けて、会社施策に対する神船支部の対応。

### 4. ものづくりの危機(その2)。……コスト・利潤・クレームとの狭間

- ①80年代中から、原動機事業の拡大、海外案件の受注増への対応。
- ②コスト・利潤の矛盾と、製品クレームへの処理。製品信頼性の失墜。
- ③労働組合の対応。……結果として聞き入れられなかった。
- ④経営として利潤追求は当然だが、製品現場の声を大切にした経営を。

5. ものづくりの危機(その3)。……今こそ技術・技能の伝承と人材育成。

①団塊の世代が退職年齢となり、固有のものづくり技術の継承が問題。

②構造不況時の採用停止が重大問題に発展しかねない状況。

③高校生・大学生の理系離れ(?)ともものづくり離れの増大。

④間に合った、会社・事業所もものづくりに目覚め、一大プロジェクト設置。

6. 神戸造船所のものづくりと人材育成について

①現場管理改革委員会を設置、問題点の整理。

②「ものづくり革新プロジェクト」を設置、技術・技能のスキルアップ。

③現在は、「ものづくり革新活動」を推進中

④人的リソースの量改善の取り組み

⑤基幹設備の最新化。(大型設備投資、特別予算処置、計画内容の見直し。)

## 7. 労働組合としての、各階層レベルでの意見具申

①連合本部から政府への意見具申

②連合兵庫(各地域協議会)から地方行政(県・市町)への意見具申

③三菱重工労働組合と三菱重工社の労使協議

## 8. ものづくりへの想い

①本業の重視、売り手よし、買い手よし、世間よしの老舗文化、固有技術。

②軽薄短小の時代だが、受注製品である重厚長大製品にも注目してほしい。

③自然状況と調和した、ものづくり。鉄鋼製品の面白さ、難しさ。

④言いたくないが、非正規社員、二極化・格差問題の影響

## 9. 最後に

①日本という国の実力について

②「ものづくり」という地味だが、決して裏切らない産業を育てたい。

③安心して会社に入ってきて下さい。(社会人としての秘訣教えます。)

おしまい。